

重点取組分野	令和 7 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
本の好きな子どもの育成	①各学年書籍資料を活用した授業づくりを行い、学習の記録を作り共有をし合う。 ②図書館司書との連携を深める。	①各学年で意識して授業で図書資料を活用することができた。今後も継続していくために、記録の残し方を検討していく。 ②オリエンテーション、読み聞かせ、レファレンスなどで各学年が学校司書と連携できた。ただし学年やクラスによって差が見られるので、学校全体としてさらに司書と連携しやすい体制を整えていきたい。	B
よりよい集団意識	①係活動や当番活動を充実させ、自他共に認め合える集団づくりを目指す。 ②ソーシャルスキルなどを活用し、集団づくりの時間とする。	保護者アンケートでは、8割の保護者がよりよい集団作りができていると感じていたが、どこでそれを感じたかは不明なため、次回のアンケートではより具体的な質問をしていきたい。 ①係活動や当番活動だけでなく、学級活動全般に関する資料を職員で共有し、集団づくりに役立てることができた。それぞれの先生方の学級活動の考え方や指導法について共有し合う場を今後設定していきたい。 ②ソーシャルスキルの活用がまだ十分ではないため、今後充実させていきたい。	B
豊かな体験的学習	①なかよしペアの活動や、行事においてさまざまな学習と関連を図りながら意図的、計画的な支援を教職員が連携して取り組む。 ②子どもが夢中になれるような体験的な学習を各教科で取り組みながら、自ら学ぼうとする子どもを育てる。	①16年遠足や他学年と総合の学習の交流など、児童が自分たちが計画してきたという達成感を味わうことができた。日々の学習の成果やクラス学年の取り組みを学校内外で発表することもできた。 ②学習の中で、たくさんの人と関わりつながら体験をすることができた。児童が自ら学ぶためにも、学習の見直しをもって計画的に取り組む必要がある。	B
自分づくりとセルフマネジメント	①学年に応じた話し合い活動の充実を図る。 ②特別活動・生活・総合・行事などで、自分のめあてを自分で設定し必要な計画を考えて活動すること、他者とのつながりを大切にすること。	①職員間で話し合いに対する意識の差があるように感じたため、下和泉バージョンの話し合い活動の型を作成や、教科で話し合いのスキルを育てるよう必要がある。 ②マネジメントを育てるためには、教科の中で自らめあてを立てることや、1時間目の最初の20分間にめあてを立てる時間の確保をする必要がある。	B
いじめへの対応	①各種アンケートの実施により、児童のSOSを素早く察知したり、YPなどに取り組みソーシャルスキルの向上を図ったりする。 ②長期休業明けなどに児童についての情報共有タイムを設定し、チームで素早く対応できるようにする。	①各種アンケートの結果をもとに全児童と教育相談を実施することで児童の悩みに寄り添い、いじめの早期発見に努めた。授業においては児童が充実感や達成感を味わうことができる授業づくりを目指し、児童の心がより豊かになるよう努めた。 ②専任と学年とのつながりを大切に、情報を共有することでチームとして素早く対応することを意識してきた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①ミドルアップダウンの原則。全職員が学校運営の当事者となる。 ②計画年休・アニバーサリー年休を導入し、休みを取りやすい雰囲気と、「おかげさま・お互いさま」の職場風土を醸成する。	①学校づくりやカフェを通して、参画意識をもち、学校運営に携わることができた。 ②4月に計画年休やアニバーサリー年休をとる時間を学年研で取る。	B
ブロック内評価後の気付き	小中合同授業研では、「相手の思いを受け止め、自分の思いを伝える授業づくり」をテーマに授業研究を行い、子どもたちの具体的な姿を通して、各教科・領域で目指す資質・能力についてブロック内で意見交換をした。各教科・領域のねらいを意識しながら、子どもたちが考えを伝え合う授業づくりについて3校で共有できた。今後、より主体的に子どもたち同士で学び合うための手立てについて考えるという方向性が見えてきた。		
学校関係者評価	中学校ブロック全体が安定しており、登校時などに進んで挨拶をする姿が見られ、素直で元気な子どもたちが多いという評価をいただいた。子どもたちの実態に応じた学習方法で学んだり、部活動や学校行事などに活発に取り組んだりしていることについても、前向きな評価をいただいた。		

中期取組目標振り返り
------------

重点取組分野	令和 8 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
本の好きな子どもの育成		①子ども一人ひとりが自分の読みたい本、自分の学習に必要な本を自ら選べるようにする選書の力を高めるとともに、読書を通して語彙を増やし、一冊を読み通す力を身につける。 ②図書館司書との連携を深め、子どもが行きたくなる学校図書館の環境整備に取り組む。	
よりよい集団意識		①子ども一人ひとりが自分のよさや強みを発揮し、それを互いに認め合い、誰もがにこにこ笑顔で過ごすことができる学級・集団を目指す。 ②学級活動(話し合い・係活動や当番活動)を通して、主体的に学習・活動できる学級・集団を目指す。	
豊かな体験的学習		①子どもの思いや発想を生かし、子どもが夢中になれるような体験的な学習を各教科で取り組みながら、自ら学ぼうとする子どもを育てる。 ②集団で学ぶよさを大切にしつつ、個々の学習力を高めるように、意図的・計画的に授業を計画するため、教職員が連携する。	
自分づくりとセルフマネジメント		①教師が、子ども一人一人に応じた日々の声掛けや支援を積み重ね、実践したことを共有する。 ②自分のめあてを設定しながら、必要な計画を考え活動することを通して、他者とのつながりを大切にしながらよりよい集団意識を自分たちで作ろうとする力を育む。	
いじめへの対応		①各種アンケートを実施を通して情報を複数職員で共有し、いじめの早期発見につなげ、チームでの早期に対応する。 ②YPやSSTなどを定期的に取り組み、児童のソーシャルスキルの向上を図る。	
人材育成・組織運営(働き方)		①学校づくり部会などの組織改革を行い、全職員が学校運営の当事者としての意識をもって取り組めるようにするとともに、情報共有を徹底する。 ②引き続き計画年休を導入し、休みを取りやすい雰囲気づくり、互いに助け合える風土を醸成する。	
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り
------------

重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
本の好きな子どもの育成	c1		
よりよい集団意識	c2		
豊かな体験的学習	c3		
自分づくりとセルフマネジメント	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
	c7		
	c8		
	c9		
	c10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り
------------